被災者へ救援支援物資、義援金、市への寄付金

熱い支援に感謝

東日本大震災で大きな被害を受けた本市に、救援支援物資や義援金、市への寄付金が全国各地から寄せられました。

5月11日～6月10日までに受け付けた分は次のとおりです。（敬称略）熱い支援ありがとうございます。

久慈市に寄せられた義援金　1,040件　8,451万8,774円（6月10日現在）

救援支援物資

■県外■

【大阪府】▼㈱アテックス

■県内■

【滝沢村】▼佐々木園子

義援金

■県外■

【山形県】▼渡辺貞・たみ子

【群馬県】▼西尾郁子

【千葉県】▼関口英行

【東京都】▼㈱マックハウス▼五味秀春

【神奈川県】▼神林洋行

■県内■

【企業・団体】▼川井婦人会▼㈱神成電気商会▼荷軽部自治会

■口座振替■

【個人】▼シミズ・ヒナコ▼ハナリ・ジュン▼ハヤシ・シオ▼ツヤマ・カズヨ▼マツウラ・ユウジ

【その他】▼匿名3件

寄付金

■県外■

【埼玉県】▼城野口有吉

■県内■

【盛岡市】▼岩手県労働組合連合会

【その他】▼匿名1件

募集 義援金ご協力を

市では、久慈市地震災害義援金を募集しています。この義援金は、市内の被災した方々に分配されます。皆さんのご協力をお願いします。

▼受付期間

平成25年3月31日まで

▼受付場所（現金）

①社会福祉課（市役所1階）

②山形総合支所

③各支所（宇部、侍浜、山根）

▼その他の受付方法

①現金書留…宛先はこちら

〒028―8030
久慈市川崎町1番1号
久慈市役所社会福祉課

②口座振込…入金前に社会福祉課までご連絡をお願いします。振込先はこちら

岩手銀行久慈中央支店
普通預金2057188
久慈市地震災害義援金

問社会福祉課☎52―2119

被災者住宅再建支援事業

東日本大震災により岩手県内で居住する自宅が全壊した、またはやむを得ず解体された方に、補助金を支給し久慈市内での「持ち家」の再建を支援します。被災者生活再建支援金（建設・購入）を受給している世帯も対象となります。

▼対象となる方（世帯）

次の2つの要件を満たしている世帯の世帯主

①岩手県内でその居住する住宅が全壊、または解体されたことにより、被災者生活再建支援金の基礎支援金を受給している

②久慈市内に自宅を建設または購入することにより、被災者生活再建支援金の加算支援金を受給している

▼補助限度額

複数世帯　100万円
単数世帯　75万円

▼申請手続

市役所社会福祉課の窓口に申請書と添付書類を提出してください

▼実施期間

平成24年7月1日から平成29年3月31日まで

問社会福祉課☎52―2119

※可能な限り、支援者からの申し出などに基づいて掲載しましたが、名称などに間違いがあることも考えられます。申し訳ございませんが、ご了承くださいますようお願いいたします

TOPICS 支援関係

みんなで記念にぱしゃり（左から4人目がばばさん）

絵手紙うちわに心込め

NHK盛岡文化センター絵手紙講師で、ガラス絵作家のばばあきらさんが6月7日、仮設住宅の入居者に「絵手紙うちわ」を贈りました。被災者のために何かしたいと考えたばばさんは、絵手紙教室の受講生に呼び掛けて1,000枚のうちわを制作。「県内の被災地を回り被災者を激励したい。一日でも早く元気を取り戻してほしい」と願いを込めるばばさん。うちわは心のこもった手作りの作品で、ひまわりや朝顔などがやさしく鮮やかに描かれています。入居者は突然の贈り物に驚きながら満面の笑み。今年の夏はやさしい風が心も元気にしてくれるでしょう。

TOPICS 復興関係

出発式ではアンパンマンとくす玉割り

「アンパンマントロッコ」運行

被災地の子どもたちに笑顔と元気を

5月19・20日の両日、JR八戸線で「アンパンマントロッコ」の運行が行われました。東日本大震災からの復興に取り組む被災地の子どもたちに笑顔と元気を届けるため、JR四国とJR貨物の協力により、JR東日本管内で運行が実現しました。

トロッコは、JR四国が所有する観光用車両で「それいけ！アンパンマン」のキャラクターがペイントされ、車両内には記念撮影のスペースも完備。

19日の出発式ではアンパンマンとばいきんまんが登場すると久慈駅には子どもたちの大歓声。乗客約50人を乗せて陸中八木駅に出発した車内では、ジャンケン大会が行われるなど、乗客は特別な旅を楽しみました。家族で乗車した欠畑永愛（とあ）くん（小久慈町・6歳）は「列車には、初めて乗りました。楽しいので、また乗りたいです」と笑顔で話してくれました。

上／「いってらっしゃ～い」手を振り見送る坂本勝義久慈駅長
下／列車内では景品付きジャンケン大会も行われました

TOPICS 復興関係

復旧した施設の安全を願う山内市長

市営魚市場卸売場が復旧

水産業の復旧・復興のシンボルに

東日本大震災により被害を受けた久慈市営魚市場卸売場の復旧工事が終わり、5月29日に完成を祝う式典が行われました。式典には、市や県、久慈市漁業協同組合、公益財団法人ヤマト福祉財団の関係者ら約50人が参加。山内隆文市長は「水産業の復旧・復興のシンボルとして飛躍させたい」と期待を込めました。

第一卸売場は事務所と休憩室を二階建てとし、第二卸売場は海水殺菌器と受変電設備の二階への移設に加え、鳥の侵入を防ぐため、正面を除く三方を壁で囲むなど環境・衛生にも配慮した施設となりました。

TOPICS
東日本大震災・復興関係

琥珀の採掘体験に笑顔

キズナ強化プロジェクト

交流を通して深める絆

被災地での復興支援やボランティア活動などを通して海外と被災地との絆を深める「キズナ強化プロジェクト」。第1陣となる訪日団が6月12日から久慈を訪問、交流を深めました。

訪日したのは日本への関心が高く、日本語を専攻しているアメリカの高校生ら50名。13日は2班に分かれて市内で漁業と琥珀採掘を体験しました。琥珀採掘体験では約8,500万年前の地層からの琥珀の発掘に挑戦。生徒からは、琥珀の原石を掘り出すたびに歓声があがりました。参加者のサラ・リプログルさんは「掘り出す作業は難しいけど見つけるまで頑張ります！」と流ちょうな日本語で話してくれました。午後は市内を散策しまちなか水族館を見学。水族館までの移動中は市内の高校生と会話をするなど、交流も深めました。その後三陸鉄道に乗車して震災について学習しました。

訪日団は14日には山形町内で環境ボランティアなどを行い、15日に次の訪問地へ向いました。

まちなか水族館で応援コメントを書く参加者